

2009年度

科目名	日本語日本文学特殊講義ⅡB		
担当教員	鈴木 利一		
配当	日文3	コード	43220
開期	後期	講時	木曜日3限
		単位数	2
授業テーマ	『萬葉集』巻十六の研究		
目的と概要	この講義では、『萬葉集』巻十六収載作品を読み進めます。巻十六には、「有由縁雑歌」の標題のもと「うた」とその由縁を記す題詞・左注を付した作品群が収録されています。その内容は、他の萬葉歌巻に比して強い独自性が認められ、まさに多種多様な上代の文芸状況を反映しているものと言えます。調査・作業の過程では、歌言葉にとどまらぬ歴史資料や漢籍等にふれることも必要となるはずで、これにより文献批判の基礎技術を習得することも講義の目的の重要な要素です。また、巻十六の撰述期は、萬葉集後期、及びそれに続く国風暗黒期に重なります。こうした文学史的観点から、当時の述作の担い手達の諸相にもふれてみたいと考えています。		
成績評価法	講義への参加状況、発表資料・課題等の提出状況、発表や課題に取り組む姿勢等を勘案し総合的に判断します。		
テキスト	『萬葉集』の全歌が、原表記の形で記載されているものならば何でもよい。		
参考書			
履修に当たっての注意・助言	前期開講科目の日本語日本文学特殊講義ⅡAと併せての通年受講が望ましい。講義に参加する者は、必ず前後期一回ずつは、担当者として発表に当たることを要望します。また、当日の発表を担当していなくとも全員が当事者としての意識を高く保持し、活発な討議を通してより深い作品理解への到達を目指すことを期待します。		
講義計画			
前期開講科目の日本語日本文学特殊講義ⅡAに引き続き、講義形式は演習形式に講義を交えた形態で行い、参加者が『萬葉集』巻十六収載作品を順次担当し「うた」と物語とが、どのように連携して表現世界を形成しているのかを考察します。担当者は、調査をもとに資料を作成し発表していくことになります。講義で取り上げることが予想される作品は以下の通りです。			
15.三八〇八番歌(第16回) 16.三八〇九番歌(第17回) 17.三八一〇番歌(第18回) 18.三八一一・三八一二番歌(第19-21回) 19.三八一三番歌(第22回) 20.三八一四番歌(第23回) 21.三八一五番歌(第24回) 22.三八一六番歌(第25回) 23.三八一七番歌(第26回) 24.三八一八番歌(第27回) 25.三八一九番歌(第28回) 26.三八二〇番歌(第29回) 27.後期まとめ(第30回)			